

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2025年 4月 28日	
所属部局・学年	野生動物研究センター 修士1年
氏名	金紗羅

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
太平洋～函館港	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
海棲哺乳類調査実習	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
2025年 4月 20日 ～ 2025年 4月 24日 (5日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学野生動物研究センター海獣班, 三谷曜子教授, 鈴木百夏さん/北海道大学練習船「おしよる丸」	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果: 長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。	
今回の実習では、北海道大学練習船「おしよる丸」に乗船し、5日間の船上での生活を通して、海棲哺乳類を調査するうえでの基本的な手法である目視調査について学んだ。	
日の出1時間後から日没1時間前までを目視調査の期間とし、2時間ごとの交代制でワッチを組んで行った。十分に目視経験がある三谷先生かTAの鈴木さんが必ず1人はいる環境で、実習生2人の計3人が常に目視調査を行った。目視調査では、双眼鏡を用いながら正面から左右90°(180°)を見渡すようにして海棲哺乳類を探す。基本的にアッパーブリッジに上がり、天候や海況が悪いときはブリッジから目視調査を行った。主に、海棲哺乳類による噴気や背びれ、しぶきなどを手掛かりとし、発見した際は、発見角度や距離、頭数、種名、発見者などを記録した。また、30分毎に天候の記録として、天気・視程・視界・反射・見やすさ・風速などを記録した。	
	
北海道大学練習船「おしよる丸」外観 (金撮影)	目視調査の様子 (金撮影)
1日目は主に基本的な手法を教わりながら大阪湾内を1時間ほど全員で調査した。2日目からは、本格的にワッチを組み、日の出から日没まで調査を行った。2日目の午後には、伊豆諸島の神津島～三宅島付近を通り、15時～16時頃には数頭のハンドウイルカが2回確認された。私は15時台に確認されたハンドウイルカは担当時間外であり、船酔いをして休憩中であったため観察できなかったが、2回目の5,6頭のハンドウの群れを確認できた。発見者が発見して数秒後には船に接近し、船による波に乗るようになっておよいでいた。3日目は、千葉県沖付近で目視調査を行っており、海棲哺乳類は確認できなかった。4日目は三陸を北上しながら目視調査を行い、天候が良くなかったため午前中はブリッジからの調査であった。私は間に合わず直接確認できなかったが、同じ担当時間の学生が、種不明(おそらくザトウクジラ)の噴気や尾びれを確認した。最終日は6時から1時間のみ目視調査を行ったが、海棲哺乳類は発見できなかった。	

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

私は、酔い止め薬を飲むタイミングが良くなかったのか、2 日目がひどく船酔いしてしまい、担当時間以外は何も作業ができない状態であった。担当時間中も、なんとか目視調査をしていたが、酔っているときに双眼鏡を覗くことはかなり辛かった。3 日目以降は、寝る前に酔い止め薬を飲むことで、船酔いせずに作業に集中できた。また、十分な睡眠時間の確保が船酔いを緩和することに重要だと痛感した。5 日間の船上での生活のなか、海況が良くないとき、海況も穏やかで目視調査がしやすい状況のとき、風が強くなり寒い時間、日が差していて反射して見えにくい時間など、さまざまな環境での目視調査をすることができ、とても有意義な実習であった。調査海域や調査時期、調査員の数などによって目視調査の過酷さは変わるが、今後も同じような船からの海棲哺乳類の目視調査を行うことがあれば、今回教わった手法や船上での生活による学びを生かしたい。

また、海棲哺乳類ではないが、オオミズナギドリやカモメなどたくさんの海鳥やトビウオ、漂流しているゴミなどを見かけることが多く、海棲哺乳類の研究をする上で、その種が生活している海洋環境について、他の生き物の知識、海流やゴミの量などにも注目する必要があるのではないかと感じた。私は、海鳥の種を見分けられず、三谷先生や TA の鈴木さんに種名を覚えてもらうことが多かったので、海鳥についても少し勉強しようと思った。

[スケジュール]

4/20

14:00 神戸港より乗船 おしよろ丸乗船における注意事項

16:00 目視調査 三谷先生、TA の鈴木さんから調査物品の扱い方や目視調査の方法を実践形式で教わる

17:00 夕食後、データの保存方法について教わる

4/21

6:00 目視調査開始 ワッチ (シフト) を組んで目視調査開始

17:00 目視調査終了 夕食後データを記録

4/22 ※10:30 まで CTD のため目視調査はなし

10:30 目視調査開始 ワッチ (シフト) を組んで目視調査開始

17:00 目視調査終了 夕食後データを記録

4/23

6:00 目視調査開始 ワッチ (シフト) を組んで目視調査開始

17:00 目視調査終了 夕食後データを記録

4/24

6:00 目視調査開始 ワッチ (シフト) を組んで目視調査開始

7:00 目視調査終了 データを記録

9:00 掃除、片付け

※メンター (PWS プログラム指導教員) が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他 (特記事項など)

北海道大学練習船「おしよろ丸」の船員の皆様、および指導して下さった三谷曜子教授、TA の鈴木百夏さんにこの場を借りて お礼申し上げます。